

記録者：志賀 文美（小国町立小国小学校）

1 研究テーマ

「主体的に学びに向かい英語で発信しようとする児童生徒の育成」
～小中連携を基盤とした英語教育をとおして～

2 これまでの阿蘇郡市の実態

R1 県学力学習状況調査の結果から、外国語活動・英語の勉強が「好き」と答えた児童の割合は、小学校3年生～6年生全てにおいて県平均を下回っていた。小学校英語の教科化に伴い、阿蘇郡市では令和2年度から小中合同の英語部会を設定し、研究を進めてきた。

3 研究の仮説

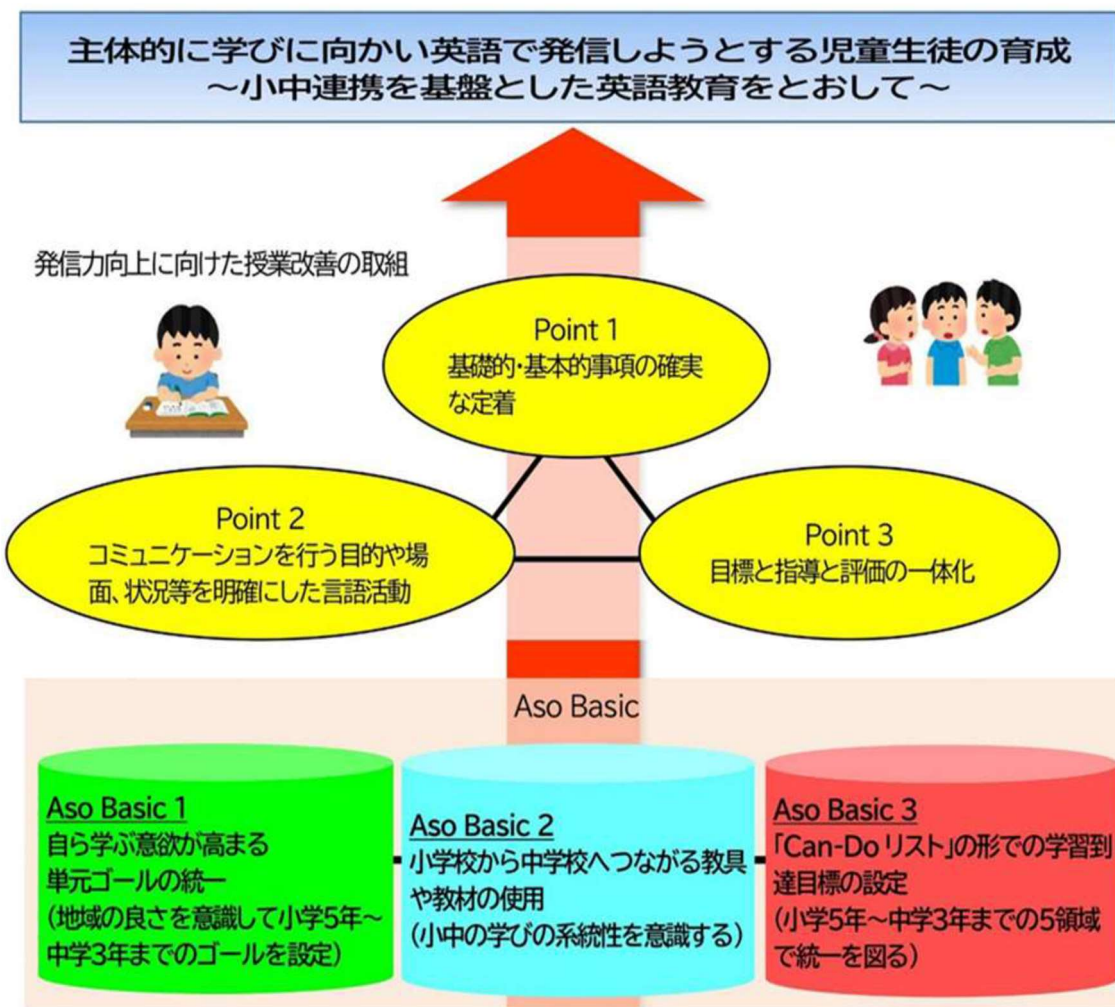
小中連携を土台とした共通実践をとおして小学校から中学校への円滑な接続ができれば、英語学習に興味を持ち、主体的に学び続ける児童生徒を育成できるだろう。

4 研究の方向性

先生方のニーズに応える共通実践 ⇒ Aso Basic の作成

発信力向上に向けた授業改善の取組 ⇒ 3つのポイント を意識した授業づくり

5 研究の構想図



6 研究の実際

(1) 先生方のニーズに応える共通実践「Aso Basic」について

◆ Aso Basic 1 児童生徒が自ら学ぶ意欲が高まる「単元のゴール」の設定

児童生徒が自ら学ぶ意欲が高まるよう、阿蘇地域の良さを意識して、小学5年～中学3年までのゴールを設定した。例えば、学級経営やクラスの仲間づくりを意識し、小学校の先生が使ってみようと思うような単元のゴールや、阿蘇の良さを生かしたゴール、目的・場面を意識したゴールなどを設定した。単元ゴールの具体例は、阿蘇郡市の全小中学校に配付し、各学校の実態に応じて活用した。

◆ Aso Basic 2 小学校から中学校へつながる教材の活用

小学校から中学校へつながる教材や教具の使用として、小学校で使い慣れているピクチャーディクショナリーを中学校でも継続して活用している。また、小学校と中学校の学習内容を照らし合わせた Small Talk 一覧表を作成した。中学校のどの単元につながっているかについて系統観を意識して作成し、円滑な接続を目指した。

◆ Aso Basic 3 「Can-Do リスト」の形での学習到達目標の設定

阿蘇郡市版の「Can-Do リスト」を作成した。小学5年～中学3年まで、5領域の目標を設定することで、5年間の見通しをもつことができた。また、作成した Can-Do リストは年度当初に児童生徒と共通理解を図っている。さらに、各学年で書ける・言えるようになってほしい英文例も作成し、5年間の系統性を見える化を図った。

(2) 発疹力向上に向けた授業改善の取組について

◆ Point 1 基礎的・基本的事項の確実な定着

Small Talk 集を活用して、Small Talk を行った。授業の始めの Small Talk を毎時間積み重ねることで、使える英語表現が増え、表現の幅が広がった。また、デジタル教科書の Chant や歌を活用し繰り返し練習することで、新出表現に慣れ親しむことができた。



ペアを変えながら、**繰り返し練習**

➡ 毎時間 Small Talk を積み重ねることで、使える英語表現が増えていく

◆ Point 2 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にした言語活動

【例1】小学5年生 Unit 1 「クラスみんなとなかよくなる大作戦(自己紹介編)」

単元のゴール達成に向けて、クラスのみんなとなかよくなるために、名前のスペル、好きなもの・ことについてやりとりするという言語活動を設定した。

クラスが変わって、
まだよくお互いのことを知らないな・・・

何が好きなのかな・・・



- (目的) クラスのみんなとなかよくなるために、
- (言語活動) 名前のスペル、好きなもの・ことについてやりとりをする。

【例2】小学5年生 Unit 5 Where is the post office?

外国からの交流生に、学校を案内するという言語活動を設定した。どの教室を案内するか考え、役割に分かれて英語でデモンストレーションを行った。その後、自分たちが考えた案内が本当に伝わるのか、もう一度練り直した。児童の振り返りからも、相手意識をもって活動に取り組んでいる様子がわかる。

どの教室を案内するか考える



案内役とタイの交流生役に分かれて、
校内を案内



- (目的) タイ王国カセサート校からくる交流生に教室等を案内するために、
- (言語活動) 行き方やどんな場所かを説明する。(教室・道案内)

案内順や教室について
グループで確かめ



児童の振り返り

5年生	
フロア ボックス コーヒー プリズ : ~ floor. This way, please. (~階です。このへりです。)	
ボックス ボックス This is the ~. (このは~です。)	
「あーかうし」にOをつけて、くわしく書こう。 ふりかえりのポイント「あかうし」	
あかうし	今日のゆりかえり
「あーあっ」→わかった・できたこと	タイの人に分かるように
「感動・感想」→感じた・思ったこと	ていねいに案内できる
「うまいっ」→友だちのじょうずだったこと	おう(に)かんぱり)ます。
「知りたい」→せらに知りたいこと	

- (目的) タイ王国カセサート校からくる交流生に教室等を案内するために、
- (言語活動) 行き方やどんな場所かを説明する。(教室・道案内)

◆ Point 3 目標と指導と評価の一体化

①単元や本時のゴールを提示し、児童と共有した。ゴールを達成するために、どのような言語活動を行うのか、児童が安心して取り組めるよう、英語表現を提示した。

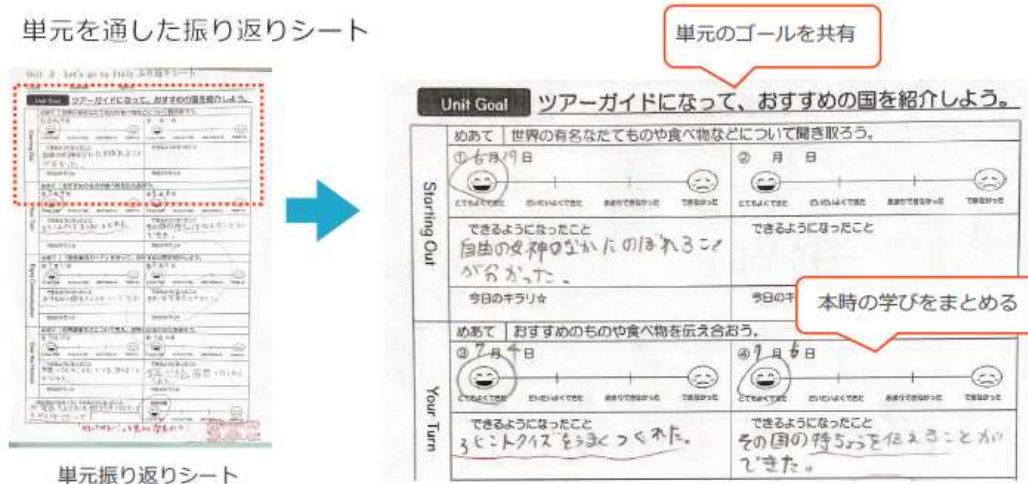


②指導の場面では、ペアでやりとりをする児童の様子を丁寧に見とり、ALT と一緒に中間指導を行った。

③単元を通した振り返りシートを作成することで、見通しをもって学習に取り組むことができた。毎時間の振り返りを1枚にまとめることで、自分の学びや成長を実感する児童の姿が見られた。

④単元の最後にパフォーマンス評価を実施することで、発信力の向上を図った。

単元を通した振り返りシート



7 成果と課題 (○成果・■課題)

○県学力・学習状況調査において、英語が「好き」「わかる」と答えた児童生徒の割合が増加した。令和2年度から令和4年度にかけて、年々好きの割合は増改傾向にあったが、令和4年度には、小学5年生・6年生において、共に県平均を上回った。

○阿蘇管内のCEFRA1レベル相当以上の取得率が、令和3年度39.8%、令和4年度43.8%と年々上昇傾向にある。英語で発信しようとする意識を高める授業づくり、及び各自治体における英研の検定料補助を行った成果が徐々に表れてきていると考える。

■学年が上がるにつれて、「好き」「分かる」の割合が低下している。今後も、小中連携を基盤とした英語教育を継続し、授業力向上への更なる工夫・改善に取り組む必要がある。